

# CHOHO

広報誌【長報:チヨ-ホ-】

Vol. **25**

2008.October Autumn

Since 2002



特集

片峰新学長が描く長崎大学の新しいビジョン



# 片峰新学長が描く 長崎大学の新しいビジョン

この秋、長崎大学の学長に就任した片峰茂氏。  
国立大学の法人化から4年半。  
次なるステージへ進むとすると、  
長崎大学はどんな未来をめざしているのか。  
片峰学長が描く新しいビジョンとその横顔に迫ります。



## CONTENTS

|  |    |
|--|----|
| 【特別インタビュー】<br>片峰新学長が描く<br>長崎大学の新しいビジョン             | 1  |
| 【We Love Circle】<br>表千家茶道部流生会                      | 8  |
| 【古写真に見る近代ホテルの黎明期(3)】<br>箱根 富士屋ホテル                  | 9  |
| 【いいたか放題】<br>長崎歴史文化博物館 館長<br>大堀 哲さん                 | 10 |
| 【経済シリーズ】<br>経済・社会のグローバル化を<br>覗いてみよう<br>①世界を動かす中国経済 | 12 |
| 【贈る言葉】<br>若者たちへ<br>前長崎大学長 齋藤 寛                     | 15 |
| 【長大ニュース】   | 18 |
| 【Report】<br>長大生のまちおこし<br>「荒れ地に花を咲かせま SHOW」         | 20 |
| 【インフォメーション】・【編集後記】                                 | 21 |

本誌記事を長崎大学関係者が転載する場合は、「長崎大学広報誌 CHOHO」号からと明記してください。学外の方は、事前に広報企画委員会までご連絡願います。





片峰 茂 Katamine Shigeru

かたみねしげる  
1976年長崎大学医学部卒業後、東北大学大学院医学研究科博士課程修了。医学博士。長崎大学医学部助手、米国立癌研究所国際研究員などを経て、1998年より長崎大学医学部教授。2002年より長崎大学歯薬学総合研究科教授。専門はウイルス学(特にプリオン)。2005年より長崎大学国際連携研究戦略本部長、2006年より長崎大学学長特別補佐、2007年より(独)日本学術振興会学術システム研究センター主任研究員の兼任を経て現在に至る。厚生労働省こころの研究科学研究事業「プリオン病における免疫反応の解明とそれに基づく診断・治療法の開発」代表研究者。



片峰薬局創業当時の掛看板(左)と百味筆筒(右)



### 江戸末期創業の老舗薬局に生まれ育った長崎っ子

**慎改** 片峰学長は生う粋の長崎っ子で、長崎大学のご出身なんです。これまで研究者でいらしたときも、また副学長や理事として大学経営に携わっていらしたときも、手腕を振るいながら、裏方に徹して表にはあまり出ていらしゃらない方でした。そのため、どいつつ方なのか、まだご存じない方も多いと思いますので、まずは生い立ちから教えてください。

**片峰** 私の実家は、思案橋にほど近い船大工町で薬局を営んでいます。1865年の創業で長崎大学と同じくらい歴史があります。子ども時代の光景で思い出すのは、近所にあった大徳寺の大クスで、その木に登って長崎港を眺めたり、近くの広場で三角ベースの野球をよくやっていました。寺町通りにあった磨屋小学校(現・諏訪小学校)に通っていました。坂段

### 性格は有言実行の頑固者 病気を克服して新たな境地へ

**慎改** ご自身の性格などについてお話を伺いたのですが。

**片峰** それは私にとっては厳しい質問です(笑)。私は長い間、研究者として生きてきました。研究者のひとりのパターンだと思いますが、とにかく頑固者です。言うたことは必ずやり抜くという良い面もありますが、悪い見方をすると、自己中心的でわがままなのです。ただ、最近そんな性格が少し変わってきたと思います。というのも、実は少し前に体調を大きく崩すことがありましてね。今は完全に回復しましたが、その療養中にいろいろな方の世話になり、非常に感ずるところがありました。周りの人の大切さが見えてきたというのでしょうか。この経験は、周囲には目もくれず研究一辺倒で突っ走ってきた私を変えたと思っています。

**慎改** 病気が良い転機になられたのですね。ところで、どんな風に頑固者だったのでしょうか。

**片峰** 研究面では、まず妥協はしません。



### 大徳寺の大クス

県指定の天然記念物でもある大徳寺の大クスは、推定樹齢800年といわれ、長崎県一のクスの大木として知られる。片峰学長は少年時代、この木により登り長崎港を眺めたという。



インタビュアー 慎改 彰子 Shinkai Akiko

1991年より長崎入社報道部制作部、在社報道部などを経て2002年から本報道部記者(長崎大学指定「県政指針」)

を上つて寺町界隈のお墓で遊んだり、眼鏡橋あたりから中島川沿いを道草を食いながら帰ったりしてましたね。そうして大学まで長崎で過ごし、紆余曲折を経て今ここにいます。長崎を離れたのは3回、延べ12年くらいです。

**慎改** 大学を選ばれるときも、医学の道を進もうと思われたのも自然な成りゆきですか？

**片峰** いえ、全く違います。高校生の頃、私は医学だけでなく文系、理系にも興味があり、進みたい大学や学部について明確なモチベーションがありませんでした。大学受験を目前にした1969年の1月、安田講堂事件(1)が起き、その頃には京都が東京大学の理工系を受験するつもりだったのですが、東京大学の入試が急に中止になり、他にもいろいろな影響があって、親がすすめる長崎大学医学部を受験しました。今思うと、このときの選択は、現在につながる人生最初の大きな節目でした。大学院は東北大学で、そこ

学会などの議論でも絶対に負けることはありません。自分の意見を押し通すタイプです。学長に選ばれたのは、そういうところを買われたのだと思っています。しかし、それだけではいけないということも理解しています。

**慎改** 今後、ご自身が大学の顔としていろいろな場に出ていき、笑顔で応対しなければならない場面も多々あると思いますが、その点はいかがですか。

**片峰** トップの役割はおおまかにいつか内政と外交があるわけですが、私は内政にはある程度の自信はあるのですが、実は外交は得意な方ではありません。ただ、いろいろな学長のパターンがあつていいと思っていますし、私なりの個性で何とかやっていくことになると思います。

### 研究者への道を後押しした 子どもの頃の父親の姿

**慎改** 片峰学長のお父様はかつて長崎大学熱帯医学研究所の所長でいらした片峰大助氏ですね。そもそも医学の道に進まれたきっかけは、お父様の影響もあつ

から研究の道に進みました。大学院修了時は長崎に帰る気はありませんで、就職も決まっていたのですが、家庭の事情で急きよ、帰らなければいけないとなった。今思えば、これも運命的な節目だったと思います。

**慎改** 片峰学長の就任が58才。長崎大学史上、もっとも若い学長と聞いています。大学に入学されたときには、まさかご自身が学長になるとは…。

**片峰** もちろん、全然思っていません。学生時代はいろいろなことがありました。私は団塊世代の一番最後の年代でして、大学に入った頃は学生運動(2)が盛んでバリエード、ストライキの最中でした。その中で自ら手を上げて権力に対抗しました。それが今では、かつて敵対視した側にいるなんて(笑)。そういう意味では、思うところはずたくさんありますね。

たのでしょうか？

**片峰** 医学部を選ぶときとつづより、研究者の道を選ぶときは多分にあつたと思います。別に何か言われたわけではありません。父は、熱帯医学研究所の教授時代に、離島やアフリカなどの海外のフィールドに出ていることが多く、家をよく空けていました。長崎にいても帰毛するのは深夜で、一緒にご飯を食べる機会はずっとありませんでした。当時は子ども心に、父は夢中になるほど何か楽しいことをやっているんだなとは思っていました。

**慎改** 逆にさびしい気持ちなどは？

**片峰** それはありませんでした。父は苦手でしたから(笑)。ただ、のちに私が研究の道を選ぶとき、当時の父の姿を思い浮かべたのは事実。そうして研究の道に足を踏み入れたら、父のようにすっかりはまってしまうわけです。

### 世界が認めるプリオン研究の第一人者から長崎大学学長へ

**慎改** プリオン(3)の研究分野で世界的に知られる片峰学長は、去る6月学長に選出された直後の記者会見で、研究教育の現場から離れることに、少し後ろ髪を引かれる思いもあるとおっしゃっていました。今も同じ思いでしょうか？

**片峰** いえ、そこはもう割り切りしました。これまで齋藤前学長のもとで、副学長や理事などを務めさせていただく中で、そうした仕事と、研究の最先端で頑張ることは両立しないと重々承知していました。学長に選ばれたからには、研究の道のキャリアはこれで終了という事です。

**慎改** 今、振り返られてどのような研究生活だったのでしょうか。

3 プリオン 感染性を持つタンパク質粒子。ウイルスや細菌、寄生虫などと同様に病原体のひとつといわれる。プリオンが引き起こす病気をプリオン病といい、羊では「スクレイピー」、牛では「狂牛病」または「BSE(Bovine Spongiform Encephalopathy)」、ヒトでは「クロイツフェルト・ヤコブ病」などがあ

2 学生運動 学生を中心とした組織が行う、政治・社会などに関連した運動のこと。ここでは、1960年代から1970年代初めにかけの、いわゆる「全共闘運動」「大学闘争」を指す。

1 安田講堂事件 1969年1月18、19日に、全学共闘会議(全共闘)の学生らが東京大学の安田講堂にたてこもった事件。

片峰薬局は慶応元年(1865)、現在の長崎市船大工町に創業。今日まで4代続く老舗。長崎大学薬学部には、片峰薬局から寄贈された創業当時の掛看板や百味筆筒、そして薬の製造時に使用した道具など貴重な資料が展示されている。



# 「法人化から4年半。 長崎大学が進むべき方向とは？」



**片峰** とにかく研究といつのはやっただとがある人でないとわからない楽しさがあります。今まで誰も知らなかったことを自分が初めて見つける喜びなど、その味を知ったらもう病み付きになります。たとえば30代の頃、私は夜11時くらいまで仕事をし、それから街に繰り出してお酒を飲むのですが、そこでもまた研究の話をするのです。帰宅して寝床に入ると、今度は天井に研究のアイデアが次々に出てくるわけです。そういうことが毎晩です。朝になると半分以上は忘れていますが、いくつかのアイデアを次の日から試してみるのが、するするたまにうまくいくんですね。それがものすごく楽しい。そんなふうには30代前半くらいまでは研究者として非常にいい時代を過ごして、ちよとい気になっていました。しかし、その後アメリカで3年くらい過ごしたとき、鼻をへし折られましてね。アメリカにはすごい人材が世界中から集まっていますから、これはいい経験でした。そうして、最

に入っているのです。

## 教育・研究のレベルを上げ 長崎大学のブランド力を高める

**慎改** これから、長崎大学が進むべき方向とは？

**片峰** 少なくとも長崎大学は研究大学として残る必要があります。そうでなければ、世界に貢献できません。長崎大学は法人に移行してから、いろいろな可能性の芽が齋藤前学長のもとで出てきています。おそらく次の5、6年で、長崎大学が研究指向の総合大学として生き残れるかどうかが決まると思っています。非常に大事な時期だと認識しています。とにかく、教育や研究の中身を高め、長崎大学のブランド力を上げることが大切です。そして、実際にいろんな成果を出して、発信していくこと。それからCOE（4）などに採択される研究を打ち出すことなど、やることはたくさんあります。

**慎改** 今、まさに過渡期にあり、これを乗り切らなければいけないことを、全ての教職員が意識すべきときなのですね。

**片峰** そうです。私は組織のためという言い方は好きではありません。実際にそれは、大学という組織を維持するとか守るためという感覚ではなく、学生や若手研究者のためなんです。いかに彼らを



最終に行き当たったのがプリオンの研究でした。その研究を進める中で、自分でも世界でそれなりのインパクトがある業績を出せるという自信がありましたね。

**慎改** とても充実した日々を送られてきたのです。その経験が、これからの長崎大学の舵取りにどのように反映されるのか、たいへん興味深いところです。

**片峰** 自らアイデアを出して、それを現実化し出した結果が世界の誰も知らないもので、ひょっとしたら世界を変えるかもしれないという、この感じ。これはもう、大学など限られたところでしか経験できないことだと思います。だからこそ、長崎大学の研究の環境をレベルアップさせていきたいですね。

## 人類のために何ができるかを 考えることが大学のスタンス

**慎改** 国立大学の法人化から4年半が

ハットにできるか。そして、いかににより良い教育や研究につながるかができるか、そういう意識で取り組むことが非常に大事です。それが結果的には組織のためにもなるのではないのでしょうか。そういう新しい意識に切り替えるためには、ときに制度を変えることが役に立つかもしれない。私は考えています。

**慎改** まずは、教職員の意識を変える。これから片峰大改革がはじまるのです。片峰 どのまでできるかはやってみないとわかりませんが、これをやらなければ、おそらく長崎大学は近い将来かなり苦しくなります。そのために意識を含めた改革が必要なのです。

## 長崎大学のこれからを示唆する 国際健康開発研究科の新しき

**慎改** とここで、この春新しい大学院、国際健康開発研究科 5 が開設されましたが、片峰学長らがそのアイデアを出され、開設のために尽力されたこと聞いてあります。

**片峰** 私だけではなく、学内外に協力してくれる素晴らしいスタッフがいたから実現したのです。とくに、3年ほど前に私もが学内機関として立ち上げたCICORN国際連携研究戦略本部 6 の力によるところが大きかったです。そして何より齋藤前学長の全面的な支援と賛同があつて実現したと思っています。そもそも、国際健康開発研究科の発想は、大学の法人化後、きちんと特色とインパクトのある大学であるべきだ、という思いから生まれました。これまでの日本の大学には、途上国の国際協力の現場で即戦力として活躍できる人材を育成する教

経ち、大学を取りまく社会情勢も大きく変わってきています。片峰学長が考える大学の在り方とは？

**片峰** 今、環境問題、エネルギー問題、食料問題など、世界的に混とんとしています。ある意味、人類や地球の危機にあることは事実だろうと私は思っています。その危機を乗り越えるために何をしなければいけないかを考える、それが大学の役割で基本的なスタンスだと思っています。だから、世界中のいろんな大学から、今の状況を打破するための研究成果なり、思想なり、インパクトを与えるような新しい創造が出てこないといけません。当然、長崎大学もその役割を担わなければなりません。

**慎改** どんなふうに取り組むべきか、いので

**片峰** 地球規模での課題にきちんと汗を流して貢献できる人材を育てるということ。世界や人類のために、大学という環境が機能すべきである、という時代

育コトは存在せず、我が国の顔の見える国際協力の進展が遅れる大きな要因となっていました。国際健康開発研究科ではさまざまな分野の教員により国際保健に関する幅広い知識を教授し、約8カ月間の長期にわたり途上国におけるインターンシップを実施します。これは他の大学にはあまり見られない新しさなのです。修了すれば公衆衛生学修士(MPH)の称号が授与されます。この研究科は大変評判が高く、2年目の来年度は、入学希望者が殺到すると予想しています。実は、私が温めている夢のひとつに、長崎大学の東京キャンパスをつくりたいというのがありますが、そのときは、まずこの研究科をそこに設けることになるだろうと思っています。

## 国際的な視野とレベルで 教育・研究を行い、世界に突出する

**慎改** 片峰学長は、いろんなところで大学のこれからについて話すと、世界に突出する、という言葉をよく使われています。今、今回の国際健康開発研究科も、その世界に突出するものをめざすわけですね。

**片峰** ええ、そうです。世界に突出するに、少しお話ししますと、今、アメリカで住宅関連のファンド・サププライム・ローンが破たんし、アフリカをはじめ世界中に影響が及んでいます。日本ではガソリンの高騰という形で、長崎県など離島を抱えるところでは漁業に大きな影響を及ぼすなどしています。要するに世界の動きが即、地域に影響する時代になつていて、これからの人材は世界で何が起つていて、その中で自分は何をすべきか

# 「大学が世界や人類のために 機能すべき時代です。」

6 CICORN 国際連携研究戦略本部  
CICORN (Center for International Collaborative Research) ODA や国連、さらには民間の資金による海外とくに途上国現地における国際協力・研究プロジェクトの企画、受託から実施までを担うための学長直轄機関。平成17年4月創設。(CHOHO 第15号で紹介)

5 国際健康開発研究科  
主に発展途上国における健康問題の解決に総合的に取り組み、国際的に活躍できる専門的人材として、公衆衛生学修士(MPH: Master of Public Health)の育成をめざす大学院。学際的なアプローチで知識を身に付け、JICA や NGO、国連などと連携した海外での長期インターンシップなどによる教育も実施される。

4 COE  
文部科学省が優れた大学の研究プロジェクトを選抜し、一定期間、重点的に援助する「21世紀 COE プログラム」のこと。COE Center of Excellence とは、卓越した研究拠点を意味する。



# 「これからは、世界に突出する 長崎大学をめざします。」



を判断できるような国際的センスがないとやっていけない時代です。ですから、長崎大学の教育・研究は常に国際的な視野とレベルでやらなければいけないし、そこから生まれてくる人材も国際性をきちんと身に付けていなければならぬと考えています。世界に突出する「は、そういう意味で使っているのです。その極めてわかりやすいモデルケースが、今現在、国際健康開発研究科であり、熱帯医学研究所であり、原爆後障害医療研究所施設である。今後、環境や工学の分野で突出する部分が増えてくれば、非常にうれしですね。

**慎改** すでに長崎大学は突出した部分をいくつも持ち、全国でも選ばれる大学であるといえますね。

**片峰** 重要なのは、そこを社会にきちんと認知していただくことです。そういう意味で、まだ長崎大学はブランド力が足りないと思っています。全体的に教育・研究のレベルを上げていかないとブランド力は

上がりません。そうして優秀でやる気のある学生を集めてはじめて、大学のレベルも上がっていくわけです。

## 地域に対してやるべきことは きちんとやり、大学の本分を通す

**慎改** 地元長崎との関わりについて、これまでも官学の連携で進めてこられました。この点に関してどのような考えをお持ちですか？

**片峰** 長崎大学は長崎市に立地して、まず、県や市の支援は不可欠です。また長崎大学は、学生と教職員及びその家族合わせて約2万人を擁し、その多くが長崎市に居住するが、近隣の町から通勤しています。いろいろな意味で長崎市にとりて無視できない状況で、お互いが影響を及ぼしあっている関係です。そのような中で、長崎大学が地域とどう関わっていくかですが、私はやるべきことはきちんとや

らなければならぬと思っています。たとえば、今、地方の医療過疎が叫ばれていますが、やはり長崎大学医学部が、長崎県の地域医療を支え維持する義務があると思っています。また、教育学部がきちんとしたレベルの教員を地元で輩出することも重要です。それぞれ社会の状況など難問を抱えています。大学の重要な役割だと認識しています。一方で、必ずやるではなく、できるだけやるといふスタンスのものもあります。地域が要請していることに、長崎大学のマンパワーなり、キャパシティが無理なく受け入れることができれば、一緒にやりましょうというものです。中途半端なレベルで地域貢献と称してやっても、それは長続きしない効果も期待できないので、その点は見極めが必要で

**慎改** それはこれまでの地域との関わり方に、変化があるということですね。

**片峰** ええ。長崎大学は、世界に突出することをめざします。そのためには、非

常に高いレベルの教育の維持や研究成果を出していくと同時に、優秀な学生を育てなければいけません。それが大学の本分なのです。誤解を恐れずに言わせてもらうと、そこに割くべきエネルギーを使わずに、地域連携に走ってはいけないと考えています。少し突っ込んで話をしますが、地方分権がいわゆるようになって久しいですね。しかし現実には、なかなかうまく進まず、まだまだ地方には力がありませぬ。そんな中、地方で最初に突出しやすいのは、大学だと私は思っています。地方大学が突出するというのは、たとえば、全ての学問領域で東京大学と同じレベルをめざすのではなく、ある領域に関しては、日本では他の追随を許さない、世界の中でもちゃんと認められるものをいくつかつくるといふことです。それがひいては地域にもいい影響を及ぼしていくのではないのでしょうか。そういうレベルでの地域貢献が、大学の本分ではないかと思っています。

んが、「長崎＝出島」というのはあくまでも江戸時代の話で、この街に住む人の心の糧にはなるかもしれないけど、その歴史に安住してはならないと思います。私は江戸時代の日本における長崎の位置付けを超えるものをめざしたい。つまり、「21世紀の世界における長崎」ということに価値観を置きたいということですね。

## 世界に突出する長崎大学、 志と覇気に満ちた若者が集う大学へ

**慎改** これから長崎大学の舵取りをするにあたって、新しいキャッチフレーズをお考えですか？

**片峰** 「世界に突出する長崎大学」「志と覇気に満ちた若者が集う大学」でいきなと思っています。

**慎改** 高校生や若い研究者に対して長崎大学をPRするならば、どんなことをおっしゃいますか？

**片峰** 長崎大学は高いところをめざしていってほしい。この点は強調したい。そして、よりよい教育環境と、若い研究者が思う存分力を発揮できる環境を整備しますので、ぜひ来てくださいということになります。

**慎改** これから、長崎大学がよりよく変わり、すばらしい人材をさらに輩出していくことを期待しています。

**片峰** 多くの学生が自分の夢を実現させるために、長崎大学を選び、学び、そういう大学をめざします。

## 江戸期における長崎・出島の 歴史的価値に安住してはならない

**慎改** 江戸時代、長崎・出島は日本の学問の中心であり、長崎大学がまさに出島の流れをくんでいるということですが。

**片峰** 江戸時代の出島を中心とした歴史、これは長崎大学というより、長崎大学が立地している長崎市や県の財産です。よね。長崎大学はその財産を活かしていく、あるいはその独自の歴史に対して貢献していくことが大事だと思います。また、出島の歴史は長崎大学ブランドを語るべき、ひとつの重要なキーワードになる可能性はあります。ただ、私が長崎に生まれ育ったからそう思うのかもしれない

# 「江戸時代の 長崎・出島の存在感、 それを超えるものを 創造していきたい。」

「長崎港俯瞰細密画（長崎歴史文化博物館蔵）  
文政年間（1818～1830）の長崎港の様子。オランダ国旗を掲げた扇形の島が出島で、対岸の屋敷が長崎奉行所西役所（現・県庁）。左側に新地（現在の新地中華街）や唐人屋敷が描かれている。





## 【表千家茶道部 流生会】

# 一期一会

今この瞬間に生じた縁が、心をつなぐ。一期一会の心持を大切に。



部長  
**早田 麻里さん**  
(工学部3年)

文教キャンパス学生会館2階和室がお稽古場です。一緒に茶道を楽しみませんか。



部員は23名。「熱心で礼儀正しい人ばかりです」と井口史子先生(前列右端)。

# 茶の湯の心に学び、憩う

畳のすがすがしい香りに包まれた和室で、背筋をすっと伸ばして正座している部員たち。その視線の先では、亭主役の部員が黙々とお茶を点てています。煩雑な日常を忘れる静寂な空気。時折、お茶碗に注がれる水の音や茶せんを動かす音が心地よく響きます。「茶道の魅力はこの静かで落ち着いた雰囲気。とても癒されます。また、季節に応じたお道具やお菓子を通して四季を楽しめるのも面白いと思います」と話すのは、部長の早田麻里さん(工学部3年)。「私もそうでしたが、部員は大学で初めて茶道を習う人が多いです。立ち居振る舞いやお茶を点てる手順など、難しいと思われるようですが練習を積み重ねれば必ずできるようになります」。所作のひとつひとつは洗練され、とてもシンプル。覚えるとお茶を点てるのが楽しくなってくるそうです。

稽古は週に一回。「学外の表千家の先生に指導をいただいています。礼儀作法や相手思いやる、おもてなしの心」など、日常生活に通じる大切なことを学んでいます。

日頃の稽古の成果は、夏季茶会(6月)と冬季茶会(12月)で披露されます。「お茶会には、OBや他の大学の茶道部の方、留学生や友人、家族など大勢来てくれます。茶道は運動部のように点数が出るものではないので、お客様の喜ぶ顔を見て成果を実感しています」。



指先の動き、道具の置き方など、丁寧に指導する原田照代先生。



「茶道をしていると心が落ち着きます」と副部長の松浦理恵さん(右端)。



入部して最初に習う「袱紗さばき」。



お菓子にも季節の趣き



# 箱根 富士屋ホテル

## The Fujiya Hotel

【古写真DATA】 長崎大学附属図書館蔵

写真名称：宮ノ下富士屋ホテル<sup>(2)</sup>  
英語名称：Fujiya Hotel, Miyanoshita  
目録番号：1349  
撮影者：撮影者未詳  
アルバム名：撮影者未詳  
撮影地域：箱根  
年代：年代未詳  
色彩：カラー  
形状：82x82  
整理番号：31 6 0  
キーワード：ホテル/近代建築/花木

### 古写真に見る

## 近代ホテルの黎明期 3

工学部教授

岡林 隆敏

Okabayashi Takatoshi

横浜に外国人居留地が建設されると、居留外国人は近くの温泉場箱根に注目し、緑の美しい空気乾燥した高地をリゾート地と考えた。明治5年(1872)5月7日、新橋・横浜間に鉄道が開通し、また、明治20年(1887)には、横浜・国府津間が開通し、東京から箱根への距離は短くなった。翌明治21年には、国府津・湯本(箱根湯本)間が小田原馬車鉄道として開業した。明治33年(1900)になると、馬車鉄道は廃止され、全線を電気鉄道に変更、東京から箱根に至る鉄道の近代化は完成した。

明治11年(1878)、山口仙之助は、箱根宮ノ下に500年の歴史を有する安藤勘左衛門経営の温泉旅館「藤屋」を買収し、これを洋風に改造して「富士屋ホテル」と改称、外国人専門のホテルを開業した。しかし、このホテルは明治16年(1883)12月12日、隣家の出火により類焼した。翌年から再興を始め、明治20年までに、平屋建て洋館、日本館、2階建て洋館を建設する。明治23年(1890)、

「富士屋ホテル」本館の新築に着工、翌年竣工した。これが写真中央の建物である。外国人宿泊客を意識した日本趣味の建物であり、寺社建築を思わせる瓦葺の屋根、唐破風の玄関、前面はガラス窓と、東洋と西洋を融合した建物となり、今日に至っている。

宮ノ下には、伝統のある「奈良屋ホテル」もあつた。明治16年、前述の火災により焼失するが、「富士屋ホテル」とは違った純西洋風の建物で再建された。「奈良屋ホテル」は、大正12年(1923)の関東大震災で倒壊し、再建されることはなかった。

「富士屋ホテル」の経営者である山口仙之助は、率先して箱根の近代化に努め、明治18年(1885)から明治20年に、塔之沢から宮ノ下まで近代的な道路の改修を行っ

た。現在の国道1号線である。さらに、電力事業の近代化に努め、明治24年(1891)火力発電機を買い入れ自家発電を始め、また、ホテル裏手の小瀧を利用して水力発電を開始した。同年春に竣工した「富士屋ホテル」本館は、火力発電により初めて電灯が灯された。リゾートホテルは、都市部で始まった日本の近代化をいち早く取り入れ、地方の近代化の最前線に立っていた。明治24年4月、長崎に上陸したロシア皇太子ニコライ二世は、この「富士屋ホテル」に宿泊する予定であったが、「大津事件」が発生し、宿泊は中止になった。

長崎大学附属図書館「幕末・明治期日本古写真画像データベース」で検索すると、箱根141件、宮ノ下20件、富士屋ホテル41件、奈良屋ホテル10件の写真が見つかる。

### 【幕末・明治期日本古写真画像データベース】

<http://oldphoto.lib.nagasaki-u.ac.jp>

参考：桐山秀樹、日本別荘地物語(福武書店)

山口由美、箱根富士屋ホテル物語(トラベルジャーナル)



# 外国人が見た 幕末・明治期の 学生たち

## ■「お雇い」外国人の 日本人学生に対する印象

幕末・明治初期には多くの欧米人が渡来し、さまざまな分野での日本の近代化形成に尽力した。富国強兵、殖産興業と近代的国家づくりが課題の明治新政府に於いて、教育の面でも高等専門教育の開始と整備が急務であった。このため、それらの先進国から臨時に招聘・雇用された「お雇い」教師・技師たちが、日本人学生に対する指導に当たった。幕末に設置された医学校や開成学校、東京大学の前身校（そして明治になって新設された専門教育機関は）こうしたお雇い外国人教師の活躍に負うところが多かった。

お雇い外国人の来日理由には、日本への強い関心、開化の指導者たちらんとする使命感に加えて、高い給料が魅力という現実的な動機があった。しかし、その一人グリフィスがいうように、アメリカに留学していた当時の日本の若者、学生たちの燃えるような情熱、ひたむきな向学心と国家への使命感に燃えて学業に励む姿に心打たれたことにもあった。

## ■ カッテンディーケや ポンペの記録から

1855年（安政2）に長崎奉行所西役所に創設された長崎海軍伝習所の指導者でオランダの海軍士官W・カッテンディーケや日本初の西洋式病院、長崎の小島養生所を設立、本格的近代西洋医学教育を導入したJ・ポンペの記録を見てみよう。カッテンディーケは彼の著書「長崎海軍伝習所の日々」の中で、日本人の物分かりの早さ、熱心さを認め、ポンペも「ポンペ日本滞見聞記」で学生の理解力のよさ、教科を貪り摂取する熱意を記している。

しかし、カッテンディーケは、日本人学生には慎重に扱うべきことを茶化してしまつような、軽々しい態度が見られることを同時に記している。また、ポンペも、熱心さのあまり臨床治療や手術のやり方など、一足とびで性急に結論、解答を得ようとする日本人学生の安易な態度を戒め、彼らのそのような要求を一蹴したことを記している。そうした中でポンペは、医学の基礎となる教科課程を着実に学習する大切さとともに、何事も徹底的に学ぶ辛抱強さを教えたのだ。

## ■ ときには「博物館」へ

お雇い外国人やポンペなどが讚えた日本の学生たちの強い知的探究心は、いまどうだろうか。博物館来館者に限って見ると、学生の姿が極めて少なく、心もとない。コンピュータやインターネット、大型テレビ、携帯電話などで容易に「モノ」を見ることが出来る時代に、博物館に行くことにどんな意味があるのか、ということかもしれない。しかし、最近の博物館は来館者の知性を刺激し、未来を創りだすためのさまざまなデザイン、装置が用意されている。若いときは生きる目的や方法を探し迷つことも少なくないであろう。そんな時、博物館で「ホンモノ」の価値を感じたり、新しい世界に出会って思わぬヒントが得られるかもしれない。長崎歴史文化博物館にぜひ足を運んでみては、と思う。



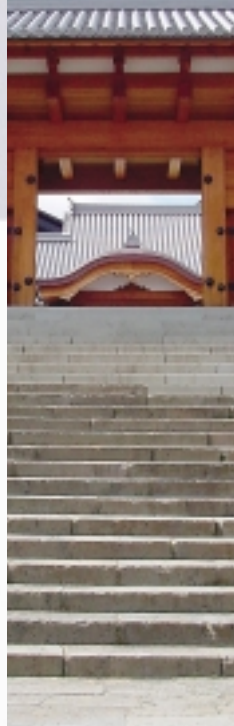
長崎歴史文化博物館館長

**大堀 哲** Ohori Satoshi

1937年福島県生まれ。1959年東北大学教育学部卒業後、文部省社会教育局、国立科学博物館教育部長、東京大学大学院教育学研究科助教授を併任。静岡大学情報学部教授、私立常盤大学の副学長、学長を経て、2005年7月長崎歴史文化博物館館長就任、現在に至る。日本科学協会評議員、日本ミュージアム・マネジメント学会会長。



ポンペ著「日本における五年間（1857～1863）」の口絵に描かれた小島養生所  
長崎歴史文化博物館所蔵







## 経済シリーズ

# 経済・社会のグローバル化を覗いてみよう!

## 世界を動かす中国経済

もちろんこうした成果は、中国国内企業だけで産み出されたものではありません。日本企業をはじめとした多国籍企業が中国に進出してきたことで実現できたといえます。(写真 参照)



日本企業が委託するロシア国境付近の木材工場

### 中国の経済発展と多国籍企業

乗用車を例にあげてお話ししましょう。もともと中国の自動車産業は旧ソビエト連邦から導入されたもので、輸送用トラック

グローバル化を越えて

国や地域の枠を越えて

経済・社会が一体化する。

その行き着く先はどのような世界だろうか。

今回は、中国で展開される国境を越えた

企業活動や民間貿易の実態について、

薛軍先生のお話を紹介します。



の生産が中心でした。改革開放後、政府は乗用車の生産を強化しようとしたが、乗用車はトラックに比べて格段に部品数が多く、従来の技術や生産システムでは対応できませんでした。

そこで外資企業にオファーを出したのですが、ホンダ、日産、トヨタの日本企業はNOといひ、部品調達システムがOKしませんでした。しかし、部品調達システムが確立していないため、フルクスイゲンは苦戦します。そこでドイツから「部品」の関連企業を中国に呼んだり、上海の地元部品メーカーを育成するなどして部品供給網を築き上げます。当時中国では「軍転民」と呼ばれる軍需産業の民生化が進んでおり、そうした地元の「軍転民」企業に設計図を渡して指導・育成することが行われました。

90年代に入ると、政府はGM(ゼネラル・モーターズ)に期待するようになります。政府はあくまで中国産車を重視する政策をもっています。そのため、一度に多くの外

資企業を受け入れることはしませんでした。転機は2001年のWTO(世界貿易機関)加盟です。中国のWTO加盟は、中国国内はもとより世界経済全体に大きな影響を及ぼすことになりました。乗用車に関しても先行した欧州勢や米国ビッグ3(GM、フォード、ダイムラー・クライスラー)に続き、ホンダ、日産、トヨタなどの日本企業、現代などの韓国企業が進出し、中国の自動車産業は活況を呈してきます。このような外国資本の多国籍企業を取り入れた経済発展は、「改革開放」後の中国の大きな特徴です。

しかし、華やかな発展が中国のすべての人々に富をもたらしているわけではありません。そこでもう一つ最近私が研究しているのは、より民間レベルでの経済発展の可能性

### 中国辺境地域の経済交流

中国とベトナム国境の街(中国側)。中央の白い建物は民間資本による交易センター



中国とベトナム国境の街(中国側)。中央の白い建物は民間資本による交易センター



中国とベトナム国境での民間貿易

### 世界が注目する国・中国

今、皆さんが注目している国といえば、中国と答える人が多いのではないのでしょうか。今年は北京オリンピックが開催されましたし、2010年には上海で国際博覧会(上海万博)が行われます。皆さんの毎日の食べ物や着ている服も、中国で作られたものが数多くあるはず。今回は中国の経済・社会の発展と周辺の国々との協力について考えてみましょう。

私が中学・高校生だった頃、中国では鄧小平という指導者のおかげで、改革開放と呼ばれる経済政策がはじまりました。この政策は中国の国内体制の改革と対外開放を進めるもので、現在もこの路線が継承され、着実に成果をあげています。



### 経済学部 薛軍 准教授

Setu Gun

1967年中華人民共和国生まれ。中国の大学を卒業後、日本に留学し大学院で学ぶ。在学中に中国進出日本企業を100社以上回って調査研究を行う。その後日本企業に就職し、上海や大連にある現地法人の社長秘書として日本企業の企画・立案・人事・総務などの業務を担当する。日本留学と日本企業への就職経験から2003年に中国社会科学院の研究員となり、引き続き日本企業をはじめとした多国籍企業を研究する。2008年4月から長崎大学経済学部でアジア経済論を担当。

### 薛先生の著書

『グローバル化における多国籍企業の現地化戦略』  
2008年3月 人民出版社(中国)

日本と中国の経済関係において、今後は対等なパートナーシップが求められる。中国で事業展開する日本企業は、欧米多国籍企業に比べて「現地化」の経験が不足している。生産、販売、流通はもとより人的資源の「現地化」が重要である。





性、とくに中国国境付近での経済交流です。  
 「存じ」のように中国は国土面積が広く、  
 国境線も2・1万km以上、陸上で接する周  
 辺国は15カ国あります。一方で、1980  
 年代の改革開放は中国沿岸部からはじ  
 まり、国境に近い辺境地域は長い間、経済  
 的に取り残されてきました。たとえば北  
 朝鮮とロシアに接する図們江の開港は  
 1990年代に着手しましたが、資金難も  
 あつてあと何十年もかかることになっていま  
 す。こうした辺境と沿岸部との格差を縮小  
 する上で、国境を越えた地域間協力が必  
 要になってきます。

国レベルでの貿易の振興は、FTA(Free  
 Trade Agreement)と呼ばれる自由貿易協  
 定によって推進されます。中国では  
 2010年1月1日から東南アジアの  
 ASEAN6カ国との間で、物品貿易分  
 野の自由化を行うことになっています。しか  
 し、私はこうした国や地方政府の取り組み  
 のほかに、すでに事実上行われている民間  
 貿易に注目しています。

たとえば、中国とベトナムの国境付近で  
 は、日常的にさまざまな物資が物物交換さ  
 れています。これは密貿易の場合もありま  
 すが、それでもこつとして中国国境地域の経  
 済が発展することは良いことだと考えらま  
 す。将来的には広域的な自由貿易ゾーンが  
 できれば、人々の暮らしも改善されるはず  
 です。(写真 2 3 4 5 6 参照)



中国とミャンマー国境(中国側)



ミャンマーの中国国境付近



中国とロシア国境、手前が中国側

**今後の開発に望むこと**

北京などの大都市の大气汚染やモンゴル  
 草原の砂漠化といった話題は、日本でも知  
 られていると思います。今後の開発では、成  
 長や効率を優先した開発スタイルは避ける  
 べきです。辺境地域では環境に優しい経済  
 発展が望まれます。(写真 参照)

日本も中国も単独では生きていけません。  
 各国と協力してパートナーシップを形成す  
 ることが重要になってきます。そうした協  
 力関係の中で、長崎の地域経済にとつても  
 発展のチャンスが広がると思います。



7 豊かな自然を残すモンゴル辺境地域



～ 贈る言葉 ～

# 若者たちへ

前長崎大学長 齋藤 寛 Saito Hiroshi

この秋、長崎大学長を任期満了により退任された齋藤先生。  
6年間に渡った学長職の中で、国立大学の法人化という  
大きな局面を迎え、長崎大学の新しい指針を示し、  
数々の重要な足跡を残されました。  
重責から解き放たれた今、齋藤先生から  
これからの時代を担う若者たちへ  
“贈る言葉”をお届けします。





月日の経つのは早いものです。2002年10月創刊の「CHOHO」第1号の巻頭特別インタビュー「齋藤新学長が語る長崎大学の近未来」で読者の皆様にはじめてお話ししてから6年が過ぎ、任期満了により私は長崎大学長を退任しました。

6年前、この誌面で私が何を約束したか振り返ってみましょう。今はやりのアウトカムの検証です。私の約束は以下の4項目でした。

## 1 指導者が熱意を持ち、懸命に教育をする大学をめざす

文部科学省は2003年(平成15)から、特色ある教育プログラム「特色GP」など、教育の質の高さが保障され、かつ他大学への波及が期待される教育プログラム<sup>①</sup>の公募を始めました。長崎大学はこれまでに17課題が採択されています。この採択数は全国国公私立大学705校のトップ10に位置します。また、全国で131課題採択の「グローバルCOE(世界的研究拠点)」に本学から「放射線健康リスク管理」・「熱帯病・感染症制御」の2課題が採択されました。本学教員の教育・研究に対する熱意と質の高さを示す何よりの証拠です。



長崎水辺の森公園にて

## 2 学問を愛する、平和を大切に

私は機会あるごとに、1945年8月9日の原爆により約1,000人もの先輩が犠牲になつたのです。キャンパスは原爆で生命を落とした先輩たちが眠っている奥津城<sup>おくつき</sup>です。たばこのポイ捨て、紙くずやペットボトルの投げ捨てなどは、先輩を冒とくする実に恥ずべき行為です。ごみが落ちていたら、そうと拾って片付けてください。このことはキャンパスの外でも同じです。たとえば皆さんが1人で暮らし始めた長崎の町内で「ごみ出しのルールを無視することは、何百年もの昔から高杉晋作、坂本龍馬、福沢諭吉ら「長崎游学の若者」を温かく迎えてくださった長崎の人々を、現代の長崎游学者はこんな心無い振る舞いをするのか」と悲しませませ。原爆の犠牲になつた先輩たちの分まで、よく生き、よく勉強するのが学生、教職員、OB、すなわち長崎大学人の責務です」と訴えてきました。構内のたばこの吸殻・空き缶などのポイ捨てが本当に少なくなりました。私は「長崎大学人」が志の高い人間であることを誇りにしています。



### 3 市民との交流を深める 新しいビジョン

ハード面での長崎大学の最大の課題は校舎や研究室の老朽化でした。何しろ築30年以上の建物が全体の70%にも及ぶのです。鍵のかけられない学生用トイレもありました。これまでの6年間に総合教育研究棟、熱帯医学研究所、附属図書館・放送大学長崎学習センター合築、経済学部、工学部、教育学部、水産学部、医学部・歯学部附属病院新病棟、学生プラザ、サクル部室、またグラウンドやテニスコートなどの新築・改修・整備143、400㎡、総額487億円が完了しました。国の財政事情が非常に厳しいとき



医学部・歯学部附属病院新病棟

に、これだけの整備ができるのは正直言うて思っていませんでした。これはすべて学生の教育にかける長崎大学の熱意と実績が文部科学省に高く評価された結果です。

「新しい図書室と充実された蔵書のおかげで良いレポートが書けた」、「音楽の練習が周囲に気兼ねなくできる」、「トイレが明るく、きれいになってうれしい」と学生諸君に喜んでもらっています。

また、市民の皆様の図書館、会議室、運動場などの利用が飛躍的に増えたこともうれしい限りです。「長崎大学が持つすべてのソフト、ハードは市民の皆様との共通財産」が長崎大学のポリシーです。

#### 市内路面電車

車の車体広告や、市内各所に掲示されている私のキャラクターが登場する、長崎大学応援団募集のポスターが話題になっています。このキャラクターは長大生の作品で、片峰茂学長当時、教育担当副学長（長）が採用しました。長崎大学を高校生、そして市民によく知ってもらいたい、という気持ちの表れです。



### 4 留学生が街を元気にし、 やさしくする

2002年まで長崎大学外国人留学生数は220人前後で横ばいでした。その後、毎年増加して、今年は過去最高の360人となりました。彼らは長崎大学外国人留学生協会を組織し、毎年夏に市民との交流の場である、インターナショナル・カルチャー・デーを開催するなど、市民との交流、地域活性化にも貢献しています。



ところで長崎大学広報誌「CHOHO」は、学長としての私と同じ2002年10月に生まれました。もともと大切な読者対象者を高校生に設定しましたが、格別の思い入れがあります。毎回九州・山口の高校・予備校に送付しました。「読みたい生徒が多いので、もっと送付部数を増やしてほしい」と要請があったときはうれしかったです。発刊部数は当初3,000部、最近10,000部です。編集陣は工学部教授の原田哲夫部

会長以下この6年間不変です。法人化するまで大学というところは何をするにも、持ち回り、「順送り」でした。大学法人化の大きな成果の一つです。

私は若い人に接するたびに、地球の将来は明るいと思ってきました。これまでも世界は常に一生懸命な若者の力で発展してきたのです。若い皆さん、これからも「何事も一生懸命」で願います。

そのような若者が入学する長崎大学がさらに発展しないわけがありません。大学側は、若い力だけに依存するのでなく、若い人の力を引き出す教育・研究を推進する責任があります。理念に「学生顧客主義」、世界の知の情報発信拠点」を掲げる長崎大学の将来は輝かしいと私は確信します。

私は25年前に医学部教授として着任して以来、常に学生諸君と一緒に歩きました。幸せでした。学長退任後もひきつづき、「長崎・若者が全国から、世界から集まる素晴らしい街」に住める幸せを噛みしめながら生きて行きたいと思っています。それでは皆さん、さようなら。再見。





### 附属図書館に戸塚刺しゅう 「阿蘭陀船 鶴の湊入航の図」 寄贈

附属図書館に戸塚刺しゅう、阿蘭陀船鶴の湊入航の図が寄贈され、6月16日、学長室にて齋藤学長から戸塚刺しゅう協会長崎支部及び製作者の方々に感謝状が贈呈されました。

戸塚刺しゅうはフランス刺しゅうを基礎に様々なメツチの組み合わせを楽しむ刺しゅうであり、このたび寄贈された刺しゅうは縦約1m x 横約1.4mは、附属図書館医学分館所蔵の、オランダ軍艦バレンバン号長崎入港の図が図案となっているもので、6人の製作者により約1年をかけて作成されたものです。

早速、附属図書館の中央図書館2階ロビーに展示されました。



戸塚刺しゅう協会長崎支部の方々と、右端から  
柴多附属図書館長、演理事、齋藤学長

### 附属図書館が 「選書ツアー」を実施

附属図書館では、蔵書構築のため学生からのリクエストによる図書購入を行っています。このたび、学生が書店に出向き、学生の目線で図書館に置いてほしい本を直接選ぶ「選書ツアー」を実施しました。

この企画は、学生懇談会などで聞かれた図書館に欲しい本がない」との学生の声にこたえたもので、7月2日、長崎市内大型書店で行いました。

ツアーに参加したのは公募により選ばれた学生9名で、2時間で111冊の本を選び出しました。

自ら選んだ本の中で特にお薦めの本には推薦文を書いてもらい、中央図書館2階に設置した企画コーナーにて本と共に展示公開しています。

参加者からは、「これからもどんどん今回のような企画をしてほしい」、他の人に役立つ本を選書できるので図書館利用者にとって有益な企画であると思つたなど、今回のツアーや図書館に対して積極的な意見が聞かれました。

今秋にも同ツアーを実施する予定です。



真剣に本を選ぶツアー参加者

### 平成20年度長崎大学 オープンキャンパスを開催

7月19日・20日の2日間、受験希望者などを対象としたオープンキャンパスを開催しました。

19日は、「文教キャンパス」、坂本キャンパス、「片淵キャンパス」の3つのキャンパスを会場とし、5,037名、20日は、「文教キャンパス」の薬学部・工学部・環境科学部の3学部のみで開催で、227名の参加者がありました。

今年は各学部説明会に加え、齋藤学長会に加え、齋藤学長による高校生のための学長特別講義、游学のまち長崎と長崎大学を初めて実施し、その中では、田上富久長崎市長とのコラボレーションもを行いました。



学部概要説明

参加者は、それぞれの学部の紹介、施設見学、公開実験などで希望する学部の教育研究内容について、また学長特別講義により長崎大学全体について、理解を深めたようです。



田上長崎市長(左)とのコラボレーショントーク



水産学部公開実験

### 大学院教育学研究科教職大学院(専門職学位課程)設置記念式典を挙

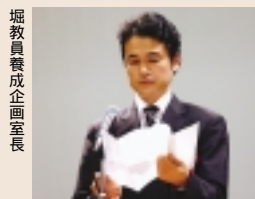
大学院教育学研究科は8月5日、教職大学院(専門職学位課程)設置記念式典及び祝賀会を挙行し、文部科学省をはじめ、長崎県、長崎市、県内連携大学などの学内外関係者ら140名が出席しました。

式典では、村田教育学研究科長の式辞に続き、齋藤学長が、教職大学院の設置は、長崎大学の社会貢献をさらに高めるものであり、大学を挙げて日本の教職大学院となるべく努力したいと挨拶し、その後、文部科学省の徳永保高等教育局長(代読)・堀清一郎高等教育局専門教育課教員養成企画室長(金子原二郎長崎県知事代読)・寺田隆士長崎県教育委員会教育長)から祝

辞が述べられ、教職大学院への大きな期待が寄せられました。

引き続き、附属小学校合唱部の児童による「トラスの後、橋本教育学研究科教授から同研究科の概要説明があり、さらに渡邊隆上越教育大学学長から、国立大学の法人化と教職大学院設立の意味」と題して記念講演が行われました。

式典後の記念祝賀会では、村田教育学研究科長の挨拶の後、太田雅英長崎県教育委員会教育長の発声で乾杯しました。その後、富岡勉衆議院議員及び谷本美彦宮崎大学大学院教育学研究科長からお祝いのスピーチが述べられ、最後に、佐伯重幸長崎大学名誉教授の万歳三唱で同研究科の新たな出発を祝いました。



村田教育学研究科長

堀清一郎高等教育局専門教育課教員養成企画室長

寺田隆士長崎県教育委員会教育長

渡邊上越教育大学学長

### 学長賞授与式を挙

8月6日、学生会館多目的室において学長賞授与式を挙行しました。

学長賞は、卒業又は修了時において特に優秀な成績を修めたと認められる学生などを表彰するために設けられた制度です。

今回は、平成20年3月に生産科学研究科を修了された生涯学習の模範となつた久保田英士さん(81歳)と「ハニエキップ」を乗り越えてバリアフリー問題に取り組んだ森正さんの両名に表彰状と記念品が授与されました。

その後、齋藤学長と受賞者の記念撮影と懇談が行われました。



授与式終了後の記念撮影

### インターナショナル・カルチャー・デーを開催

8月10日、中部講堂において、今年で6回目となる長崎大学留学生協会(NUFLSA)主催のイベント「インターナショナル・カルチャー・デー」を開催しました。

当日は、夏の暑い日差しの中、子供たちや地域住民など約200名が参加しました。

イベントの前半は、中部講堂前でワールド・フード・フェスティバルが行われ、参加者は各ブースにおいて、インドネシアやオランダなどからの留学生が作った世界11カ国の家庭料理に舌鼓を打ちました。

後半は、カルチャーショーが行われ、留学生、一般学生のほか周辺の地域住民による歌や音楽、舞踊などが披露されました。



齋藤学長を囲んで記念撮影





姫野ゼミ

Report!

長大生のまちおこし



# 荒地に花を咲かせまSHOW♪



7月初め。根太い雑草と格闘。



雑草に覆われた再開墾前の現地。



9月中旬、開花の時期を迎え、花見を楽しんだゼミのメンバーと地元の方々。種の収穫は、1カ月後、地元の小学生たちと行う予定。

「環境共生社会」をテーマに、「ユニークな活動をはじめました！」  
環境科学部の姫野教授ひきいるゼミが



いつもお世話になっているご近所のゲンさん(左)に、相談中の姫野教授。

姫野ゼミでは今、『荒地地に花を咲かせまSHOW』と題したまちおこしにチャレンジ中です。これは、耕作されなくなった荒れた田や畑に、夏・秋にはヒマワリ、冬・春には菜の花を栽培し、その種から油を搾って地域エネルギーに活用しようという試みで、地域の活性化をめざす西海市雪浦地区の耕作放棄地に、地元住民の協力を得ながら着々と進められています。

「雪浦地区の地元住民は長年、地域の環境を活かしたまちづくりに取り組んできて、私たちのゼミも以前からその活動に学ぶなど、交流がありました。その中で今回の企画が生まれたのです」と姫野順一教授。活動資金として、『長崎県学生さんのまちおこし』地域づくり事業の補助金を得て、この7月、本格的に活動をスタートさせました。

ゼミ生たちは慣れない農機具を持って、2500平方メートル(約25m×約100m)の畑を再開墾。まいた種はスクスクと育ち、この秋には種の収穫、そして油搾りが計画されています。

「ヒマワリの油は食用に適した良質なもの。石鹸、ろうそく、焼酎など、新しいブランド商品も作れないか思案中です」と姫野教授。また、「まちおこしは時間がかかります。私たちの活動はあくまでも通過点。試行錯誤しながら長期に関わっていきたいです」と話しています。



7月下旬、間引きと補植。作業がきつくなると誰かが歌い出す。力が湧くから不思議。



7月中旬、種まき。地元の方も手伝ってくれた。「芽が出ますように。鳥に食べられませんように。」



畝模様も美しく、すっきり整えられた畑。緑豊かな周囲の風景に溶け込んでいる。



畝立て機に初チャレンジ。「けっこう重いし、むずかしい」。農業のたいへんさを痛感。



## 編集後記

10月11日付けで、新学長に就任された片峰茂先生へのインタビューを特集いたしました。ご自身のこと、長崎大学が目指すべき未来について、明快に語っていただいています。「世界に突出する長崎大学」、「志と覇気に満ちた若者が集う大学」であるためには、われわれ大学構成員一人ひとりの、さらなるがんばりに期待がかかっているようで、身の引き締まる思いがいたします。

新旧の交代には、時の流れを実感させられます。前学長の齋藤先生には、「若者たちへ」と題して、学長時代の6年間を振り返りつつ、未来を築く若い皆様へのメッセージをいただきました。齋藤先生は、この広報誌「CHOHO」の誕生から今日に至るまでの成長を温かく見守っていただきました。誌面を借りてお礼申し上げます。本当にありがとうございました。

さて、今回から新しい企画、「経済シリーズ」をスタートさせました。グローバル化の世の中、何か新しい発見をしていただければ幸いです。(原田 哲夫)

[編集・発行]

長崎大学広報企画委員会  
(広報誌企画・編集専門部会)

[部会長]

原田 哲夫 (工学部教授)

[委員]

堀内 伊吹 (教育学部教授)  
吉田 高文 (経済学部准教授)  
高橋 和雄 (工学部教授)  
池田 幸恵 (環境科学部准教授)  
小林 信之 (医歯薬学総合研究科教授)  
堀尾 政博 (熱帯医学研究所教授)  
佐々木 均 (医学部・歯学部附属病院教授)  
光石 恭典 (総務部総務課長)

TEL. 095-819-2018

FAX. 095-819-2024

(E-mail)

www\_admin@ml.nagasaki-u.ac.jp

[発行日] 2008年10月11日



11/8  
(SAT)

## サイエンスワールド2008in対馬

日 時 11月8日(土) 10:30~14:30  
場 所 対馬市美津島町町民体育館、対馬市美津島文化会館  
対 象 者 小、中、高校生、一般  
参 加 費 無料  
テ ー マ ふしぎ体験! ひらめき、そしてつながり! (楽しみながら学ぶサイエンス&テクノロジー&アート)  
問い合わせ先 長崎大学教育学部総務係 TEL. 095-819-2263  
◎詳しくはこちらをご覧ください。http://www.edu.nagasaki-u.ac.jp/

### 土木の日関連事業

11/8  
(SAT)

#### ①浜町パネル・模型展

「土木」を分かりやすく紹介したパネル・模型の展示、土木キッズコーナーなど大人からお子さんまでどなたでも楽しめる内容です。  
日 時 11月8日(土) 10:00~17:00  
場 所 長崎市浜町ベルナード観光通りアーケード内

11/9  
(SUN)

#### ②テクノパワーおもしろ体験隊

小学校高学年を対象に「土木」に関する実験やものづくりを体験・学習し、科学への興味や関心を育むイベントです。皆様のご参加をお待ちしています。  
日 時 11月9日(日) 13:00~16:00  
場 所 長崎大学文教キャンパス 中部講堂前広場  
対 象 者 小学校4、5、6年生(保護者同伴でも結構です)  
なお、小学校3年生以下は保護者同伴でご参加ください。  
定 員 100名  
応募方法 住所、氏名、年齢、電話番号を書いて往復はがき、もしくはFAXでお申し込みください。保護者の氏名も記入してください。  
締め切り 11月2日(日) 当日消印有効  
応募先 〒852-8521 長崎市文教町1-14  
長崎大学工学部社会開発工学科「土木の日」係  
TEL. 095-819-2626 FAX. 095-819-2627

11/22  
(SAT)

#### 2008年度「メカライフの世界」展

機械と遊ぶ~遊びの中から機械のしくみを体験しよう~

学生が作った機械工学に関する「もの」を使って、遊びの中から機械の構造や原理を体験・理解することができます。  
日 時 11月22日(土) 10:00~15:00(予定)  
場 所 長崎大学総合教育研究棟1階  
対 象 者 小学生以上(事前申込不要)  
U R L http://www.mech.nagasaki-u.ac.jp/  
問い合わせ先 長崎大学工学部機械システム工学科 准教授 小山敦弘  
TEL. 095-819-2496 FAX. 095-819-2534 E-mail: a-koyama@nagasaki-u.ac.jp

12/13  
(SAT)

#### 第6回「学生ものづくり・アイデア展 in 長崎」

新潟大学・富山大学・長崎大学の工学部学生が製作した、ものづくり・アイデア作品を展示・実演し、コンテストを実施します。  
日 時 12月13日(土) 13:00~15:30(予定)  
場 所 長崎大学総合教育研究棟1階エントランスホール  
対 象 者 学生、一般(事前申込不要)  
U R L http://ecet.eng.nagasaki-u.ac.jp/index.ecet.html  
問い合わせ先 長崎大学工学部機械システム工学科 准教授 扇谷保彦  
TEL. 095-819-2505 FAX. 095-819-2534 E-mail: oyasu@nagasaki-u.ac.jp

前夜祭 11/20  
(THU)

11/21~11/23  
(FRI) (SUN)

#### 学園祭情報

今年のテーマは「∞-infinity-」。各学部祭の特色を活かして、それぞれの個性を無限に表現することの出来る学園祭にしたいという思いが込められています。市民の皆さんも、お誘い合わせのうへで来場ください。

日 時 前夜祭 11月20日(木) 11月21日(金)~11月23日(日)  
場 所 長崎大学文教キャンパス・片淵キャンパス・坂本キャンパス  
学園祭HP http://www.choudaisai.com/



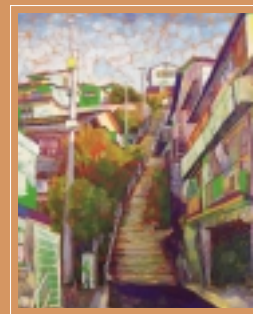
表紙  
について

「風景・長崎の階段」

大学院教育学研究科 教科実践専攻  
芸術と文化活動の教育コース  
芸術専修免許プログラム 絵画1年

鳥 鳴鳴

私が生まれ育った内モンゴルは、地平線の風景ばかりでした。ですから、初めて目にした長崎の街の「階段」のある風景は、驚くほど印象的でした。傾斜地に密集する家々の間を縫うように存在する「階段」。それが、狭い空間や往来の困難さを活性化しているように感じます。そこに長崎人の努力や工夫が垣間見えます。





読者の皆様のご意見・ご要望をもとに、より充実したCHOHOを目指します。  
大変お手数ですが以下のアンケートにお答え下さい。  
ご回答は FAX (095-819-2024) でお願ひします。  
なお、E-mail (www\_admin@ml.nagasaki-u.ac.jp) でも受け付けております。

[年齢] 歳 [性別] 男・女

1 今回よかったコーナーに ✓ をつけて下さい。(複数回答可)

- 【特別インタビュー】片峰新学長が描く長崎大学の新しいビジョン
- 【贈る言葉】若者たちへ 前長崎大学長 齋藤 寛
- 【We Love Circle】表千家茶道部流生会
- 【長大ニュース】
- 【写真に見る近代ホテルの黎明期(3)】箱根 富士屋ホテル
- 【Report】長大生のまちおこし「荒れ地に花を咲かせま SHOW」
- 【いたか放題】長崎歴史文化博物館 館長 大堀 哲さん
- 【インフォメーション】・【編集後記】
- 【経済シリーズ】経済・社会のグローバリゼーションを覗いてみよう!  
①世界を動かす中国経済

2 今回の内容はどうか? ✓ をつけて下さい。

- やさしい  ふつう  少しむずかしい  むずかしい  わからない /  おもしろい  ふつう  つまらない

◎ご意見・ご感想をお書き下さい。.....

3 今後読んでみたいテーマなどありましたらご記入下さい。

ご自由にお書き下さい。

4 CHOHO をどこでご覧になりましたか?

5 その他、大学に対するご意見・ご要望がありましたらお聞かせ下さい。

ご自由にお書き下さい。

ご協力ありがとうございました。

長崎大学広報企画委員会(広報誌企画・編集専門部会)  
〒852-8521 長崎市文教町1番14号 TEL095-819-2018  
<E-mail>www\_admin@ml.nagasaki-u.ac.jp